

小さな世界を描いた本

もし小人がいたら、人間の世界はどう見えているのでしょうか？今日は、小さな生き物や小さな本など、小さな世界を楽しめる本をご紹介します。

1冊目は、梨木香歩/著『岸辺のヤービ』です。

寄宿学校で教師をしているウタドリさんは、自然豊かなマッドガイド・ウォーターの岸辺にボートを浮かべて読書をするのが大好き。ある夏の日、いつものようにボートで読書を楽しんでいると、ふわふわの毛に包まれた、二足歩行するハリネズミのような小さな生き物が現れました。その生き物はクイー族の小さな男の子・ヤービ。おっかなびっくりウタドリさんがプレゼントしたミルクキャンディーをきっかけに、2人の交流が始まります。

著者の梨木香歩氏は1995年に児童文学ファンタジー大賞を受賞したこともある、ファンタジーの名手です。この物語も設定が細やかで、ヤービが語るクイー族達の穏やかで驚きに満ちた暮らしぶりに引き込まれるだけでなく、自然破壊などの環境問題にも踏み込んだストーリーになっています。また、小沢さかえ氏のかわいらしいイラストにも想像をかきたてられます。

2冊目は、赤井都/著『豆本づくりのいろは』です。

眺めているだけでも楽しい、手のひらサイズの豆本。本書は、初心者でも楽しめる簡単な豆本の作り方から、本格的な革表紙や布表紙の作り方まで、10種類の作り方を解説した1冊です。また、様々な豆本作家の作品とその世界観も紹介されています。小さな革張りのトランクの中に、旅にまつわる短編が収められた豆本が入っている作品など、こだわりの豆本の世界は眺めるだけでも楽しめます。

3冊目は、M. B. ゴフスタイン/作『ねむたいひとたち』です。

この本は見た目も小さく手のひらサイズです。登場する「ねむたいひとたち」もとっても小さくて、一家4人全員がスリッパの中にすっぽり収まってしまうほど。そんな小さな「ねむたいひとたち」はいつもとってもねむたくて、あったかいココアを飲めばすぐに目がとろんとろん。どこでだって眠ってしまいます。

眠る前のねむたい幸せな時間が優しいタッチで描かれたこの絵本、文は谷川俊太郎氏がやわらかな言葉で訳しています。小さな子どもたちへのおやすみ前の読み聞かせにはもちろん、大人の方もなんだか眠れない夜に読んでみてはいかがでしょうか？ゆううつな夜を幸せな時間に変えてくれるかもしれません。

いつもと同じ毎日でも、少し視点を変えると、まったく違う世界が見えてくるかもし

れません。図書館にはこの他にも、色々な世界を教えてくれる本がたくさんあります。
読書の秋にぜひあなただけの本の世界を探しにきませんか？